



# 虹いろ



### Line Up

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 表紙    | 辞令交付式               |
| 題字    | 虹いろ                 |
| 2-3   | 変わるもの変わらないもの        |
| 4-5   | 企画事業部から新年度に向けて      |
| 6-7   | 研究研修                |
| 8-9   | 平成30年度新入職員紹介        |
| 10-11 | 森のコンサート報告           |
| 12-13 | ブリッジスクール/アメニティフォーラム |
| 14-15 | 赤い羽根共同募金            |

24

平成30年(2018)  
6月発行 24号

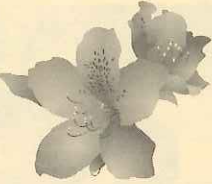
## 変わらないもの 変わるもの

1年に1度くらいは、と思い、歓送迎会で「この法人の目標とするところ、「理念」はなんでしょうか？ Aさん、どうですかね」「?????」「じゃあ、この法人はどんな思い、あるいは願いのもとに作られたと思いますか？ Bさん「?????」

現場の皆さんは、利用者さんと精いっぱい身体を動かして、奮闘している日々です。何物にも代え難い大事なことです。が、そんな時こそ、何を目指しているのか、使命は、どんな期待を背に受けているのか・・・等、思いをめぐらし、更に、高みに持っていけるような年にしたいと思えます。

「理念」共に暮らす地域の創造と実現  
|| ノーマライゼーション

〜農と食と美で地域共生を図る〜  
「創設の精神」何人も平等である。



本年は、法人全体を見ていく視点に立って、各事業・部門・部署の管理者の転任、配置替

4P上部へ続く

### ☆星の里管理 長田和也

星の里施設長に任命されました、長田和也です。どうぞ宜しくお願い致します。さて、本年度の星の里の方針は「愛とユーモア」です。利用される方々の特性に敬意を払い、愛情を持ちながらきちんと向き合っていく、そこに笑いというスパイスを足しながら、職員一同、楽しい生活を支援していきます。

### ☆生活支援センターひだまり分所ぼーら管理 魚田和輝

生活支援センター陽だまり分所・ぼーらの管理者を仰せつかりました、魚田和輝と申します。職制の重さに戸惑いもありますが、共に働くスタッフを大切にしたい働きやすい職場作り、また、利用者の皆様が安心して地域で生活を送っていけるように「明るく、楽しく、元気よく」を motto に頑張っていきたいと思えます。

### ☆菜の花管理 廣瀬政光

私は、平成18年10月から、足掛け12年近く菜の花の管理を勤めさせていただいています。長くやっているからみえること、長くやっているからみえないこと、両方沢山あると思えます。見えることはより詳細に、見えないことは、視覚化、言語化出来るように、皆さんに助けをいただきながら職責を全うしたいと思えます。

### ☆春の陽管理 小林瑞樹

春の陽の管理者を勤めさせていただきます、小林瑞樹と申します。趣味はフットサルとスノーボードです。早いもので入社10年目を迎えました。春の陽勤務になり、2年と短くまだまだ未熟者ではありますが、利用者様、職員、家族のために日々精進いたします。みんなが明るく楽しい春の陽を目指していきたいと思えます。

### ☆のはら楽団管理 阿部通洋

のはら楽団の管理を仰せつかりました、阿部通洋と申します。入社以来、就労系をメインに利用される方々の支援に携わって参りましたが、これからはのはら楽団全体の舵取り役という重責を担うことになり身の引き締まる思いです。職員一同「明るく、楽しく、元気よく」を motto に、利用者の皆様の笑顔が溢れるのはら楽団にします。

## ☆生活支援センターひだまり管理 小林洋子

14年ぶりに居宅の事業所に戻り、生活支援の楽しさと大変さを感じ、2ヶ月が経ちました。また、変則勤務の中、サービスを利用する方々の希望を実現するため、奮闘しているスタッフにも感心しております。利用する方々の笑顔を糧に、スタッフと共に奮闘していきます。

## ☆キッズクラブひまわり管理 宮崎亮子

今年度から八ヶ岳名水会の仲間に入れていただきました、障害児通所支援事業所「キッズクラブひまわり」の宮崎です。前法人の理念を継承しつつ、時代に合った障害児支援を目指して日々努力していきたいと思っています。子どもと関わって40年になりますが、今後は音楽活動などを通して、他事業所の皆さんと交流していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

## ☆ケアホームLu<sup>ル</sup>a陽だまり荘・ピエント・大坊管理 北村多佳子

名水会のエリア構想に基づき、南（韮崎）エリアのグループホーム支援と訪問介護事業を担う拠点として準備中です。場所は韮崎市巾島町のグループホームLu<sup>ル</sup>a。よりコンパクトで地域に密着した、顔の見える事業所を目指していきたいと思ひます。韮崎市内のグループやご自宅を自転車に乗って職員が訪問する日をお楽しみ！

## 相談部

### ☆相談支援事業所らいむ管理 守屋亮

相談支援事業所らいむの管理者をおおせつかりました、守屋亮と申します。相談の業務に就いてからはまだ日が浅く、皆様に教えを請うことや、不慣れな部分もたくさんあるとおもいますがお力添えを頂きながら、らいむ職員7名と共に新しい気持ちで全力を尽くす覚悟です。

### ☆自立生活援助ふらっと管理 小沢佳幸

障害者総合支援法改正により、平成30年4月から施行された新サービス自立生活援助「ふらっと」を5月より開設いたしました。自立生活援助は障害者の一人暮らしを支援するサービスです。集団生活は苦手だ、一人暮らしを始めたいが不安がある、現在一人暮らしをしているが困っていることがあるなどフットな立場で接し、ふらっと立ち寄れるような事業所を目指していきます。

### ☆障害者就業・生活支援センター陽だまり管理 坂本誠

障害者就業・生活支援センター陽だまりは、韮崎市民交流センターニコリ内に事務所を置き、峡北、峡西、峡南地域にお住まいになっている障害者の就業や職場定着に向けて、雇用、福祉、教育、医療等の関係機関と積極的に連携しながら、地域の中で安定した生活を送る為に必要な相談や支援を一体的に行っています。

### ☆地域定着支援センター管理 白川邦夫

「お腹が空いて死にそうになり、おにぎりを盗んでしまいました。」矯正施設に入所している方のお話です。「歩きスマホ」が問題となる現在でも、このような理由で刑務所にはいる方がいます。「福祉の力」で何とかならないかなあと、日々考え行動し、相談にのって、支援をしています。

登用が多くありました。

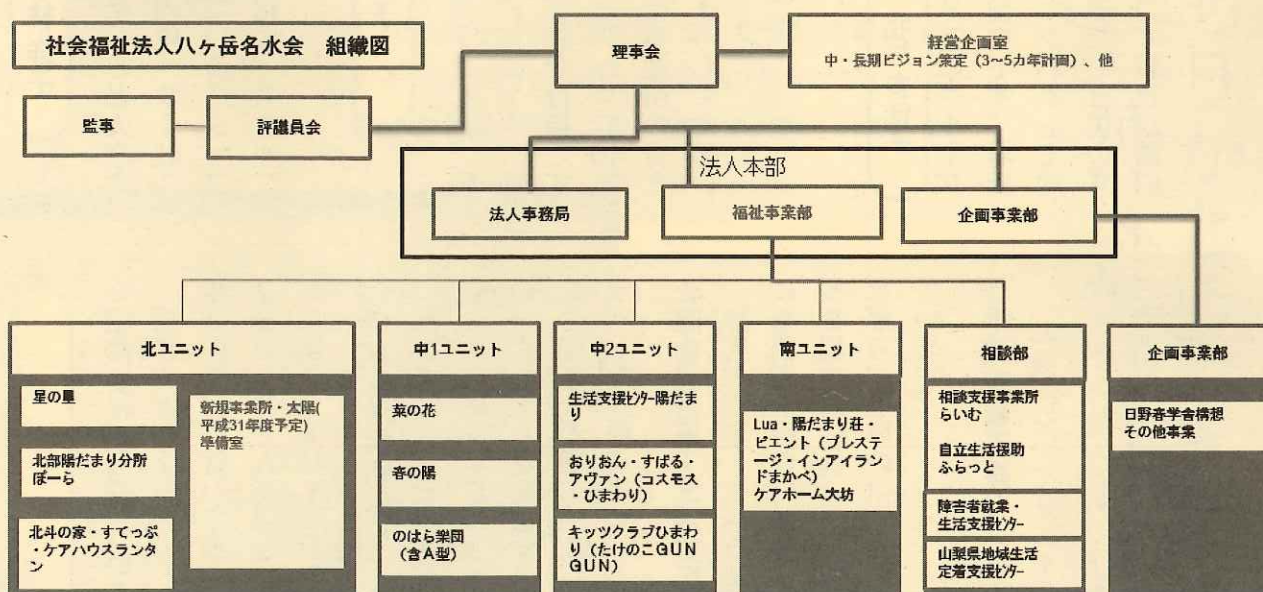
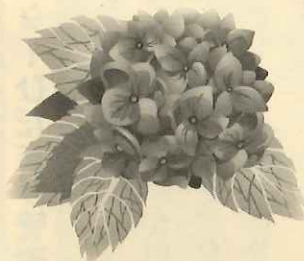
法人・各事業所をけん引する管理者の熱い思いをお聞きください。

一同どうぞ宜しくお願いします。

「地域共生」という、新たな布を織るにあたって、縦系はユニット編成、横系は各事業所・各部門。それらを支える理事会を始めとする法人各部門。こんな風に組織図を見てください。希望を最大限生かして（意思選択支援）上下・縦横・自在に動けるように利用者さんの取り組みは既に始まっています。ただ、十分に希望に添える程、サービスがない現実があります。利用者さんの動きに合わせて、職員も柔軟に動いてまいります。

変わらないもの、理念や創設の精神。変わるもの、世代交代。色合いと言ひ、織り具合と言ひ、新たなニーズに合わせた布がおりだされていく本年。

どちらも大事にしていきます。



「日野春学舎構想」は、今年度も引き続き

「農業」「ブリッジスクール」

「アート企画」

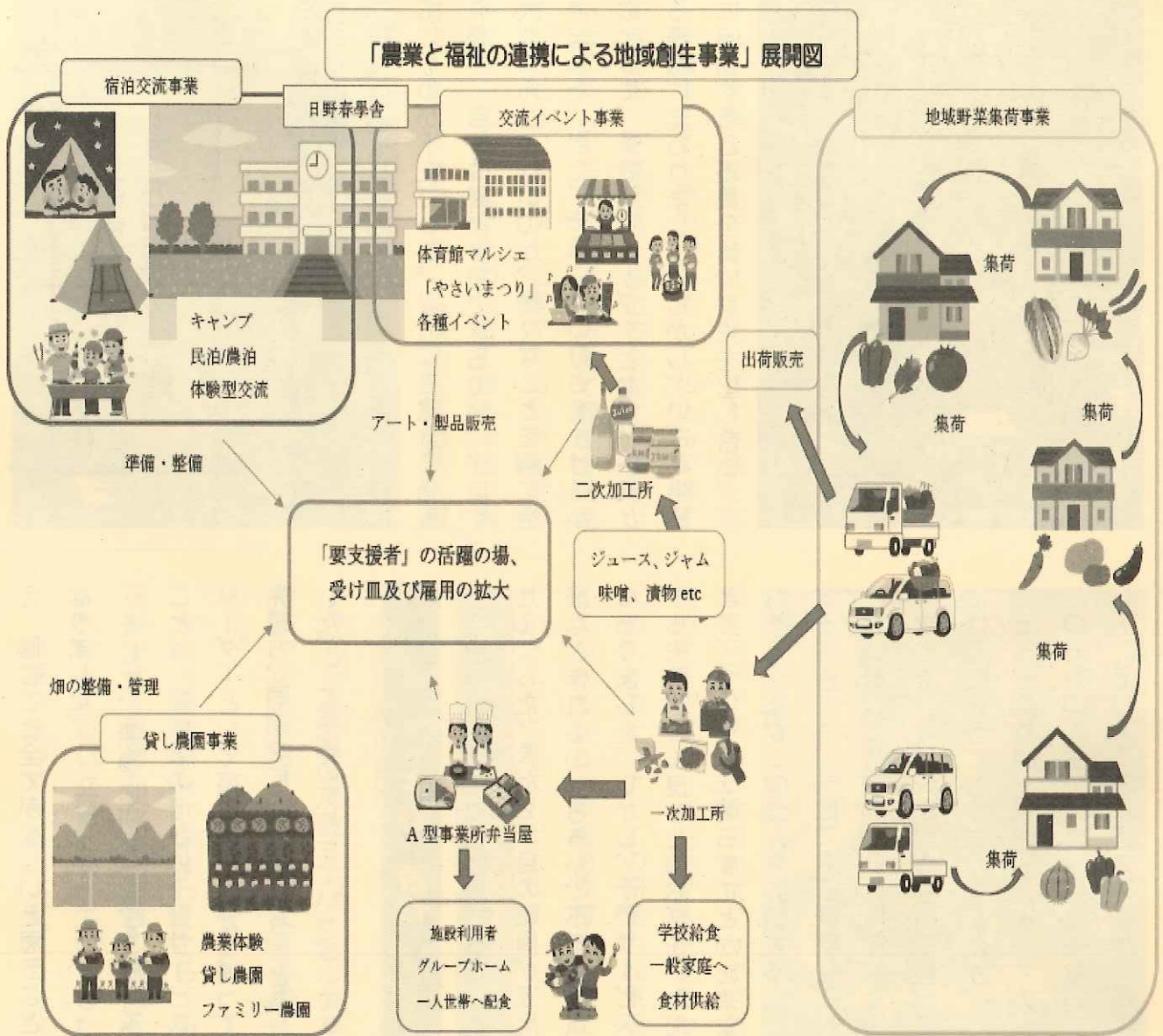
の三本柱で進めていきます。

企画事業部 窪川敦之

「農業部門」は新年度に入り、福祉医療機構に助成をいただいで進める「農業と福祉の連携による地域創生事業」がスタートしました。「農福連携つちのね」担当として浅井真が中心となり、農業指導の徳永敦浩さんとともに「貸農園事業」「地域野菜集荷事業」等の準備を進めています(参照:「農業と福祉の連携による地域創生事業」展開図)。地域の農業生産者や農業大学校とも連携し、シナプテック株式会社の戸田達昭氏やナノフラワールの河西香菜子氏に企業とのパイプ役になっていただきながら、農福連携の取り組みをより幅広く展開していく予定です。

「ブリッジスクール部門」は、これまでの事業の成果を踏まえて、引き続き「トライコース」「つどいコース」「チャレンジワーク」「ブリッジラボ」に取り組みます。下條英理、宮崎郁江、植松玉美、相吉謙輔が担当し、講師としてコネ

「農業と福祉の連携による地域創生事業」展開図



クト創造社の石垣悦子氏とシナプテック株式会社の戸田達昭氏にご協力いただきます。各コーラスとも見学・ヘルプ大歓迎です。現在、文部科学省の「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の企画競争へも申請中です。

「アート企画部門」は、文化庁の「戦略的芸術文化創造推進事業」「日瑞国交150周年記念展覧会『アール・ブリュットー日本とスウェーデン』展」(6月2日(土)ー7月6日(金開催))について、当法人の瀧澤聡がメインキュレーターとなり、相吉謙輔、新田千枝と共に準備を進めてきました。全国各地の作家さんの元に直接出向いて集められた貴重な作品は、日野春學舎での集約作業を経て、55点が5月9日に無事、スウェーデンに発送されました。

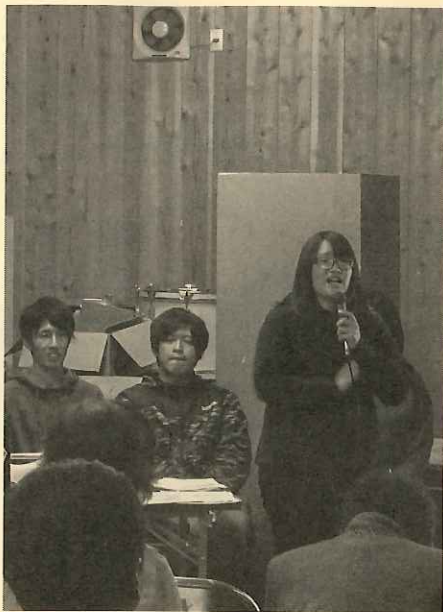
また、厚生労働省の「障害者芸術文化活動普及支援事業」も山梨県との連携を強化する形で引き続き取り組むこととなりました。新年度を迎えて山梨県全体の芸術文化活動の底上げと普及、優れた成果の発信を更に進めるため、事業を始動しています。

本構想の取り組みは、お陰様で5年目に入りました。引き続き皆様のご理解ご協力を、宜しくお願い申し上げます。

## 平成29年度 星の里研究研修

大森 彩華

研究研修の話をも四月に聞き、まず初めに感じたのが不安でした。以前に先輩方の発表を観て、自分は最後までできるのか、すごく大変なんじゃないのか、様々なことを胸に抱きました。また、それに追い打ちをかけるかのように、多数決でリーダーとなり、不安から嫌悪に変わりました。しかし、いざ本格的に始動すると班員全員で意見を出し合い、考



え、悩むこと全てが楽しいと思うことが多くなりました。

そして、無事に研究研修を終えて今思うことは、達成感のほかに千野サービスマネジメントリーダーとして頼りない部分を補って頂いた先輩方、同期達に「一年間ありがとうございました。」と感謝の気持ちでいっぱいです。

千野 辰吉

今回の研究研修で私は最初不安しかありませんでした。まだ2年目の職員が満足した研修など作れるのだろうか、不安の起点はそこにありました。しかし、千野サービスマネジメントから失敗しても良いとお話をいただいたことで、その不安を晴らすことが出来ました。

おそらく私がこの法人を辞職するまたは勤続する場合でも、失敗できる研修はこれが最後と思えました。そう思うと自然体で研究に臨めました。職歴や年齢の若い職員が多く、時には道に迷うことがありましたが、チーム皆でそれを乗り越えられました。この体験は、この先私の人生で大きな財産になると感じました。そしてこの研修での学び、研修に臨ん

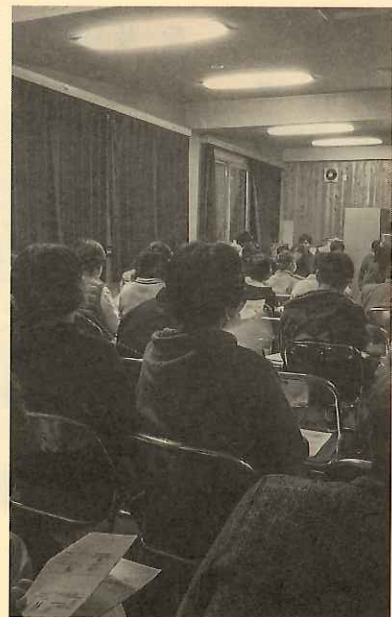
だ気持ちを大切にして日々の業務に努めていきたいです。

小松 寛明

研究研修から、私は取り組んだテーマやメンバーとの協力から多くのことを学びました。

私自身が研究したテーマでは、利用者さんの言動を客観的に理解する為に、心理学を研究させて頂きました。そこから人生の途中で障害が生じた場合、孤独を感じることもあると分かりました。そのことから中途障害がある利用者さんに対して、どんな環境に整えるのか、どんな段階を踏みながら集団の中に溶け込むべきか、考える必要性を感じました。

研究研修の発表に向けて、これまで何度もメンバーで話しあいました。話しあいの中に



は、夜中の1時まで話し合うこともありまし  
た。その経験から集団で何かを成し遂げる、  
大切さを実感できて良かったと思いました。

### 小松 央征

昨年の4月、前年度に引き続き今年度も、  
不安感を抱えながら、研究研修が始まりまし  
た。ですが結果として、今年の研究研修もメ  
ンバー全員で協力できました。また完璧とは  
行かなくても、無事に成功して私たちが満足  
できる形で終了できた事に安心していきます。  
私はこの一年を振り返って、改めて課題を達成  
する為には、メンバー全員での協力が必要不  
可欠である事、またその協力できる環境の為  
には、しっかりとメンバー間で報告・連絡・相

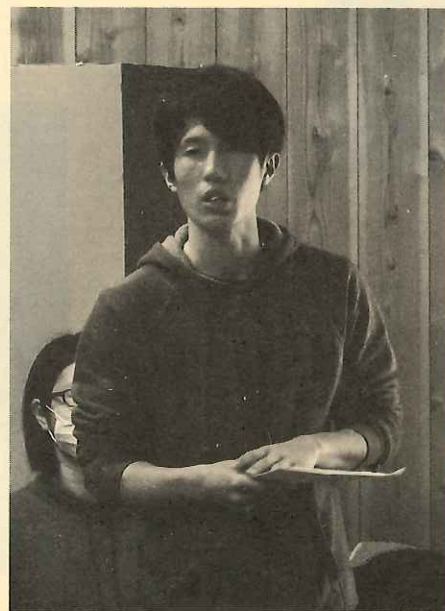


談を行い、情報の共有が試されていることの  
大切さを学ぶことが出来ました。この学びを  
大切にすると共に、この研究の成果を自信と  
して持ちながら、今後の支援や仕事に活かし  
ていきたいと思っています。

### 城之園 暖明

研究研修の目的に、チームワークを身に  
つけるがあります。その目的から私はチーム  
ワークの大切さを今回の研究研修から感しま  
した。

今年の研究研修が始まったころ、私は研究  
研修が2年目であり、1年目の職員を支えな  
ければならない立場とと思っていました。しか  
し、今振り返ってみると、支えるより支えて



もらうこと、教えるよりも教わることの方が  
多かったと感じています。それは後輩達が言  
いたいことについて、きちんと私にぶつけてく  
れたからだと思います。

チームワークの一つは、互いの思いを伝え合  
える関係、受け止め合える環境があること、  
それが信頼関係なのかなと思いました。私を  
信頼してくれた後輩3人に、とても感謝して  
います。

### 遠山 萌

28年度、29年度と2年間参加させていただ  
きました。この2年間、他の業務と両立させ  
ながらというのは難しかったです。それでも、  
自己研鑽の学習を、1人ではなくチームで共  
有できたことで、中途半端にならず、1年間  
出来たと思います。この研究研修で、2回と  
も職場に還元できるような工夫を行いまし  
たが、結局形にするだけで、上手く活用する  
所まで行かなかったのは心残りではありませ  
んが、少しずつでも、今後、気付いたらそこにあ  
る、あったから助かったという形で活用して  
行けたらと思います。

**河内 智子**  
(星の里)

今年の春より星の里の配属になりました、河内智子です。

生まれ育ちは新潟で、しばらく東京で暮らしていました。好きなことは写真と旅と読書です。

北杜での暮らしと星の里での仕事に慣れるまで少し時間がかかると思いますが、おひとりおひとりとの時間と関係を大切にしながら過ごしたいと思います。

よろしくお願いします。



**原 麻美**  
(北部陽だまり分所 ぽーら)

私の名前は原麻美です。今年の4月から八ヶ岳名水会でお世話になります。

以前、私は障がい者支援員として働いていました。再びこのような仕事ができるということに喜びを感じています。ご利用者が安心して毎日が楽しく過ごせるようにサポートしていきたいと考えています。



**坂本 一真**  
(生活支援センター陽だまり)

北杜市長坂町小荒間出身の31歳です。6年勤めた県内の新聞社から転職してきました。星の里は実家の近所で小学生のころ頻りに遊びに出掛け、利用者と接する機会がありました。私自身大人になり当時の利用者に再びお会いできるのが楽しみです。一日でも早く仕事を覚え、皆様の力になれるよう励む所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



**望月 洋美**  
(相談支援事業所 らいむ)

2月に採用となり、相談支援事業所らいむに所属しています。あっという間に4ヶ月が経ちます。雪道を恐る恐る通勤した季節から、鮮やかな緑の景色に変わり、少しずつですが慣れてきました。

支援職に就いて今年で6年目です。職業指導員からスタートし、基幹相談支援センター、地域活動支援センター等でお仕事をさせていただきました。この間、半分以上を市役所で過ごしてきましたので、現場を身近に感じる毎日は大変刺激的です。人見知りも相まって、緊張続きの有様ですが、八ヶ岳名水会でお仕事をする喜びを感じながら、私なりに充実し、学びながら向き合っています。相談支援専門員として、人と人が心ゆたかに、大らかにつながれるよう福祉サービス利用のお手伝いをしてまいります。



**林 みさお**  
(星の里)

平成30年1月より勤務させていただいております、林みさおです。

入社して5ヶ月、緊張の連続ですが、利用者さんの笑顔に助けられながら、日々仕事をさせていただいております。

これからも、季節の移り変わりを共に感じながら、毎日穏やかに遅れますよう、また笑顔と笑い声があふれる、暖かい「星の里」でありますように、微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



この度、春の陽に所属が決まりました、佐藤ひかりです。

より良い支援ができますようスタッフの皆様と共に働きたいと考えております。

私の特徴は背が低いのとそれ程大きくない目です。趣味は絵を描くことと喫茶店巡りで、

クリームソーダが大好きです。体調を崩さないようにしつつ精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

**佐藤 ひかり**  
(春の陽)

東京で8年暮らし、山梨に戻ってきました。

実家は甲州市の勝沼町で祖父母がぶどう農家をしています。東京に出てから山梨について知らなかった自分に気づき、生まれ育った山梨をもっと知りたいという思いで戻ってきました。

勝沼から見える山と北杜から見える山は景色が違い新鮮です。これから皆さんから北杜のことを教えてもらいたいです。

よろしくお願いいたします。

**雨宮果歩**  
(生活支援センター陽だまり)





# 第20回

## 小さな森のコンサート

### が行われました

#### 第20回 小さな森の

#### コンサートでの様子

春の陽 江口紗枝実

平成30年5月13日(日)べるがにて、第20回小さな森のコンサートが開催されました。

例年通り、春の陽の利用者さんも多数参加されていきました。心配されたのは、天気。あいにくの雨天となりましたが、皆さんそれぞれ楽しまれていたようです。

出演者の方々が、様々な音楽を奏で、それに合わせて身体を動かしたりする姿がとても印象的でした。毎年参加されている利用者さんで、いつもは音楽に合わせてピョンピョン跳ね、ダイナミックな動きで楽しんでいる方は、雨だったのでテントの下でユラユラと身体を揺らし、楽

しんでいたそうです。その姿が目には浮かび、とても微笑ましく感じました。中には、雨でも関係なくステージの近くで手を叩いたりして楽しむ方もいました。

全身で楽しさを表現してくれる利用者さんたちに、スタッフも自然と笑顔になるのでした<sup>(^v^)</sup>

最後には、全員で輪になって踊る姿も見られました。

出店もたくさんあり、好きのものを食べて満足でした。寒い中、かき氷を食べる利用者さんもいたそうです。

悪天候のため、例年よりも盛り上がり方が足りない部分もありましたが、皆さんそれぞれ楽しまれました。動きが活発な方はカッパを着た方が良いのでは、との反省点もあつたので、来年度参加の際には活かしていきたいと思えます。

参加された利用者さん、スタッフの皆さん、お疲れ様でした！



# 20回目を迎えた「森コン」 に参加して

のはら楽団 伊藤 美咲

今年で20回目を迎えた「小さな森のコンサート」。「森コン」と呼ばれ、毎年の開催を楽しみにされている、障がいのある人もそうでない人も愛するコンサートです。

私は今回が初めての「森コン」への参加でしたが、当日はあいにくの雨。悪天候の中、憂鬱でしたが、その気持ちはコンサートが始まるとどこかにいってしまいました。ステージ上での楽しい歌やダンスとおいしい食べ物、障害がある人もそうでない人も参加者が声を掛け合い助け合いながら皆で楽しい「森コン」を作り上げていて初めて参加した私もしあわせな気持ちになりました。

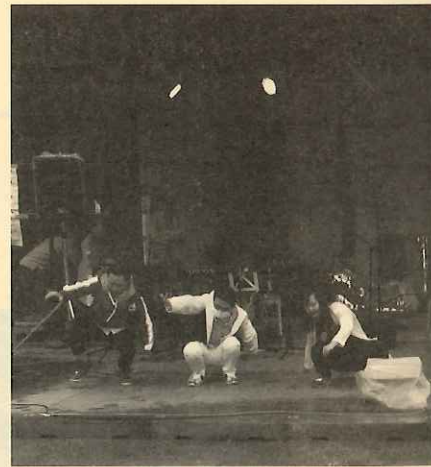
参加者はどしゃぶりの雨を気にせず思い切り楽しみ、喜びや感じた気持ちを体で表現していたのが印象に残っています。

20回を迎えた「小さな森のコンサート」は参加者にとって自由に楽しめて表現できる場所であり、大きな存在だと感じました。

また、様々な人が自由に楽しめるあたたかいコンサートでした。そんな素敵な「森コン」



が、21回目は晴天の中開催されることを願っています。





# ブリッジスクール修了式 —社会への第一歩

平成30年3月18日(日)日野春學舎音楽室にて、平成29年度ブリッジスクール「トライコース」の修了式が開催されました。

ブリッジスクールの修了式は今回で三度目となり、三期生六名のうち、四名が修了式に出席しました。来賓の方々、講師の方々、職員の総勢二〇名に見守られながら、緊張した面持ちで修了証書を受け取っていました。また、一人ひとりが壇上に立ち、「マイプラン」の発表を行いました。ブリッジスクールで学んだこと、ブリッジスクール修了後の目標について、堂々と語っていた姿が印象的でした。それに対して、講師の方々から熱いエールが送られ、心温まる修了式となりました。

修了式後には、昨年ブリッジスクールを修了した二期生が中心となって、「修了生を祝う会」が開催され、お弁当を食べながら、修了生へお祝いの言葉を述べていました。卒業生同士の結束力は強く、この一年間の成長も感じられました。

ブリッジスクールで出会った仲間同士が交流を深め、自分たち自身で考え行動する力を発揮できる場を提供するために、今後もブリッジスクールが様々な形で機能していけると良いと思います。

障害者就業・生活支援センター陽だまり

加藤 麻記





## アメニティフォーラム 22に参加して

八ヶ岳名水会支援センター陽だまりで勤務して、10年目になるうとしていますが、今回、初めてアメニティフォーラムに参加しました。

毎年声をかけて頂いて頂いていましたが、家庭の事情で断っていました。しかし、今回はぜひとも行ってみたい、福祉の事をもっと学んでみたい！と思いい、再度声をかけて頂いたこともあり、参加を決意しました。初めてのアメニティフォーラム、緊張とドキドキ、ワクワクが止まりませんでした。

まず初めに驚いたのが、会場が有名なホテルという事、来場者がものすごい人数で全国各地から集まっているという事でした。こんなにも多くの人が福祉の事を考えて集まり、語り合い、学ぼうとしている、福祉に関わってきてこのような場面に出会えるとは思いませんでした。

講義を下さっている先生方も福祉に対する姿勢に熱い思いがあり、とても強く刺激を受ける事ができました。また、同じ福祉に関わっている人同士の交流会もあり、朝から晩まで福祉の事を考えていられる、そんな素晴らしい3日間を過ごすことが出来ました。

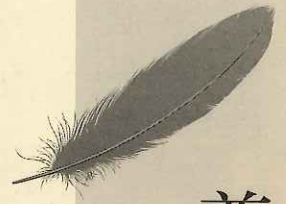
この3日間の研修に参加できたことは、僕の中で大きな財産になったと思っています。これからの支援に役立てられるよう精進していきます。

支援センター陽だまり支援員

中山敏和



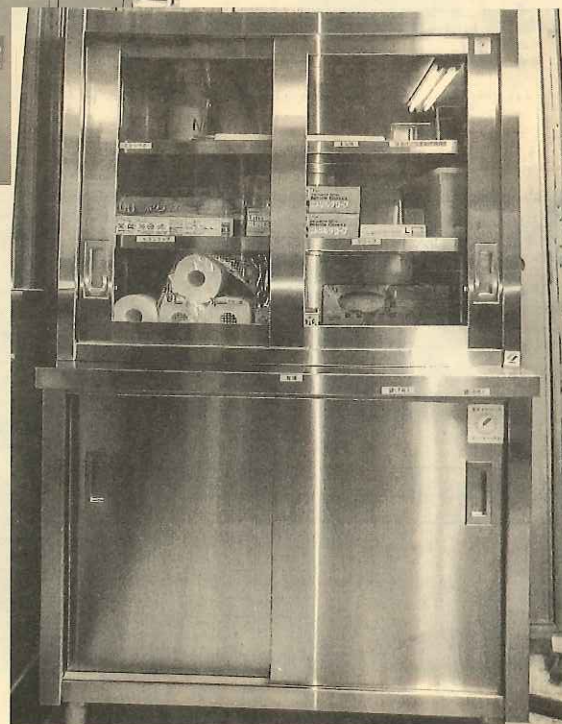
# いただきます！



春の陽

## ロッカー整備事業

通所される利用者が40名、勤務する職員が30名おります。個別の収納スペースの確保が課題でした。また、施錠機能のついた備品収納についても不足していました。助成金のおかげでロッカー、備品庫を購入することが出来て改善されました。



尊い援助をありがとうございました！

（赤い羽根共同募金助成のお礼と報告）





# 大事に使わせて

星の里

## 簡易水洗トイレ整備事業

星の里の日中活動場所は、星の里周辺の山、林、畑にあります。そのため、手洗いが必要になった時には、活動を中断して建物内に戻らなければなりません。本事業のおかげで、必要な時にすぐに利用できるため、衣服を汚すことも、建物内にドロなどの汚れの持ち込むこともなくなりました。



---

### 平成29年度 社会福祉法人 助成事業途中報告

---

社会福祉法人清水基金より、10,000,000円の助成を頂きました。

障害者のアート展示とカフェスペース等の整備のため、現在、工事内容の詳細を検討中です。9月工事開始、12月末までに工事完了予定です。工事完了後、再度活用状況などご報告いたします。ありがとうございました。

ありがとうございます！

○題字を書いて下さった方

星の里 看護師 斎藤 けさ子 様

○表紙の写真をくださった方

企画事業部長 窪川 敦之 様

素敵な字と写真をありがとうございます！

## 訃報

星の里利用者 小野義孝 様

三月二十四日 享年七十四歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 編集後記

八ヶ岳名水会は今年、法人創立二十六周年、星の里開設二十五周年を迎えています。峡北という地域に、障害福祉サービスの社会資源がまだ乏しかった時代、初代法人理事長故坂本清満氏が私財を投じて、志を同じくする人々と八ヶ岳名水会を創立しました。

設立以来、八ヶ岳名水会が、入所施設という枠に留まらず、峡北地域のために、山梨のために、障害児者の地域での自立生活を支える仕組み作りを推し進めてきたこと、その仕組が、社会資源として効果的に機能し続けてきたことは、自他ともに一定の評価をし、認めることです。二十六年を経た現在の私達の姿を「遠方から眺めた」時に、果たして、多くの人々の夢や希望が込められた美しい虹色に見えるでしょうか？

これからの二十五年、いや五〇年、百年、この地で、八ヶ岳名水会が虹色に名実ともに見えるように、創立者から次代を託された私達は、現在を働かなければならないと、日野春學舎の桜を見て思いました。

光

### 社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@y-meisui.or.jp

URL y-meisui.or.jp/

#### 広報委員スタッフ

廣瀬政光 穂坂雄太 (菜の花) 遠山萌 小松寛明 (星の里)

江口沙枝美 中仙道涼子 (春の陽) 由井美涼 (のはら楽団) 河井知子 (陽だまり)

魚田和輝 (ぽーら) 錦見祐治 (相談支援) 奥村仁美 (事務局) 法人事務局

